

主な内容	
2面	総会
3面	支部総会、寄稿
4面	支部総会、同期会、寄稿
5面	支部総会、同期会、寄稿
6面	寄稿
7-8面	維持費納入者一覧
9面	支部総会、同期会
10面	支部総会、同期会、寄稿
11面	同期会、支部総会、寄稿
12-13面	春高バレー、寄稿者名簿
14面	春高バレー、在校生の活躍
15面	在校生の活躍
16面	お知らせ、支部総会



発行所 佐渡高等学校同窓会  
 代表 中山 秀英  
 題字 川上治美(昭47年卒)  
 〒952-1322 新潟県佐渡市石田567  
 新潟県立佐渡高等学校内  
 振替 00620-3-805  
 ☎(0259)57-2155(代)  
 FAX(0259)52-5253



「春の高校バレー」ベスト応援賞受賞!(武蔵野の森総合スポーツプラザ)



未来を見据え、開かれた同窓会へ

—県立高校の重み—  
 同窓会長  
 中山 秀英

何お変わりなくお過ごしのこととお慶び申し上げます。常日頃より、さまざまなお立場から母校・同窓会を力強くお支え頂き感謝のしよもありません。今回も母校への厚い想いを胸に抱き述べてさせていただきます。

わが同窓会執行部は、政治、宗教、商業との過度な関わり合いをもたず運営することを第1としてきました。また、ジェンダー・ギャップ(男女格差)解消、女性会員がより活躍できる同窓会に脱皮するには何が必要なの

か模索し続けて来ましたが、凝り固まった同窓会を動かすには、男女格差解消への強い自覚が必要だと感じます。会員諸氏から建設的意見をFAXで賜りたいと存じます。

わが母校「新潟県立佐渡高等学校」の名を今年ほど社会に知らしめた年はないであろう。歴史に残るに違いない。会員諸氏とともに素直にこの喜びを分かち合いたい。また、「県立高校の重み」をも噛みしめたい。

ます。更なる発展を期すためには、同窓会員は在校生を支え、支援・育成する必要があります。同窓会の一部の同窓会屋で支えざるを既に超えております。全会員の支援を必要としております。

最近、AYA(思春期・若年成人)世代の会費納入意識が十分とは言えないまでも、向上傾向を示しております。同窓会は母校在校生の学力向上や運動活動を支援しております。ぜひAYA世代はもとより同窓会諸氏には同窓会活動にプロアクティブに同窓会活動に参画して欲しい。引き続き「年会費の納入」を強く意識して頂きたいと切望します。

の実践に幅広く活用してもらいたいと同窓会は強く望んでおります。授業活用だけでは設置した意味が無い。討論とプレゼンテーションをおし、違った価値観をもつ人間同士が意志疎通を図る必要性が増してきた。合意を取り付ける能力のグローバル化の競争が激しさを増している。コミュニケーション能力向上は社会人基礎能力である。この意識改革は、大学からでは遅すぎる。討論などをとおし、高校時代から相互理解や合意を取り付ける能力向上に電子黒板を活用し、自らのブラッシュアップに役立てて欲しい。また、地域活動をおし心が激しく揺れる体験をして欲しいものだ。

先が見通せない時代は、AI(人工知能)、IoTやビッグデータの導入によって新たなドメインが誕生するだろう。学校で教わった知識だけではもはや対処は困難だ。自ら考え判断しなれない。主体性が重要視される。批判的思考や探究が重要なのだ。今、探究的活動にアグレシブな人材が求められている理由はここにある。

昨年、8月同窓会本部総会が佐渡・浦島で開催された。その席上、インターハイ・7種競技に出場した土屋美晏フラガさん(2年)は同窓会からの全国大会出場支援に感謝を述べ、会員諸氏の感動を呼び起こした。指導教諭・川波一八氏(平4卒)の配慮を賞賛する声が大である。そんななか、木村元氏(昭51卒)のモザンビーク大使赴任の記事が新潟日報紙に掲載された。

日本の国益とモザンビークの発展のために力を尽くして欲しいと同窓会は切に願っている。同窓会本部は次世代を担う人材として鈴木啓介氏(昭58卒)を新たに副会長に指名した。氏には「県立の重み」を噛みしめてもらいたい。在校生が多様な課題解決へと導くサステナブル・クリエイションには何が必要なのか提言して欲しい。独留学中、欧米社会を内側から見つめた経験で、客観的に日本を見る視点を養うにはどのようにしたらよいであろうか。執行部の副会長は、松井夫佐子氏(昭41卒)を筆頭に後藤圭子氏(昭46卒)、末武正義氏(昭41卒)、鈴木啓介氏(昭58卒)の計4人体制となった。

原稿執筆中に、朗報が入った。母校第21代校長の藤井人志氏が県教育次長への起用が報じられた。喜ばしい限りである。氏には、わが同窓会の強力な理解・助言者になってもらいたい。

恩師を2人も失った。痛恨の極みである。瀧川美智夫氏(昭20佐中卒)。振り返ると、彼からは高2、3年時英語の授業を受けた。ホンビノの英々辞書を推奨され購入した。何かの機会に、ユージン・オニールの「楡の木陰の欲情」原文を読むことを勧められた。バートランド・ラッセル卿のエッセイ集は愛読していたが、戯曲は初めてで手こずった覚えがある。「desire」を「浴場」と勘違いしたことが、読む最大の動機になったことはだけは確かだ。恩師は黄泉の国で苦笑しているに違いない。

「A Pilgrims' Touch」のタイトルで堂々とスピーチした。誇らしいことである。まさしく「文武両道」を描き出した。「全国大会出場」の肩書は誰もが一目置くステータスである。出場者は、全員臆することなく「新潟県立佐渡高等学校」の誇りを胸に大健闘した。春高バレー県大会(新潟)決勝戦では中山道夫氏(昭48年卒)、橋本敏郎氏(昭60年卒)の同窓生が母校出場選手を鼓舞して下さった。感謝します。

これ程迄にと在学生会員は実績を上げており、ボールはわれわれ同窓会員に投げ返されており、か模索し続けて来ましたが、凝り固まった同窓会を動かすには、男女格差解消への強い自覚が必要だと感じます。会員諸氏から建設的意見をFAXで賜りたいと存じます。

「創立120周年事業」で電子黒板を設置して頂きました。これもひとえに会員諸氏のお陰であります。深甚なる感謝の意を表します。募金賛同して下さった方のご芳名は同窓会報に既に掲載しご貢献を後世に確実に伝えただけでなく、主体的・対話的なディープ・ラーニング

「教育の根本は、熱意と啐啄(そつたく)である」。との本間栄三郎氏(昭31年卒)の箴言が思い起こされる。昨年、8月同窓会本部総会が佐渡・浦島で開催された。その席上、インターハイ・7種競技に出場した土屋美晏フラガさん(2年)は同窓会からの全国大会出場支援に感謝を述べ、会員諸氏の感動を呼び起こした。指導教諭・川波一八氏(平4卒)の配慮を賞賛する声が大である。そんななか、木村元氏(昭51卒)のモザンビーク大使赴任の記事が新潟日報紙に掲載された。

謹んで両恩師のご霊前に用意を捧げ、深く哀悼の意を表します。

会長直通ホット・ライン  
 FAX  
 0259-5215018



### ご挨拶

校長  
遠間 春彦

同窓会員の皆様におかれましては、益々御清栄のこととお喜び申し上げます。

昨年度は同窓会総会をはじめ、島内・県内そして県外の各支部総会にお招きいただき、大変楽しいひとときを過ごすことができました。佐渡高校同窓会の絆の強さをあらためて感じるとともに、会員の皆様の温かなおもてなしに心より感謝申し上げます。

また、今年一月の男子バレーボール部の春高バレー出場に際しましては同窓生の皆様より多くのご寄付をいただき、大会会場の武蔵野の森総合スポーツプラザやアミュメント佐渡でのパブリックビューイングで声援をいただき、ありがとうございました。しかし、今年度に入ると、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、四月の始業式及び入学式を終えた後、学校は臨時休校となりました。例年この季節には、部活動の県総体や体育祭の準備などで生徒の賑やかな声が響いているはずの校舎も、今はひっそりとし、時

折鳥のさえずりが聞こえてきます。

文武両道の伝統をうけつぐ本校生徒達ですが、今はそれぞれが自宅で自学自習やトレーニングに励んでいます。しかし、インターハイをはじめ、北信越大会、県総体、また全日本吹奏楽コンクールといった本校の生徒が高校生活の目標にしてきた大会の中止が次々と発表されました。

特に三年生にとっては、昨年度からの大学入学共通テストをめぐる方針の変更に加え、このたびの臨時休業や諸大会の中止と、厳しい最終学年の日々となっています。こうした困難のなかにあっても、本校生徒は自分の目標に向かって黙々とがんばっています。

このような長期にわたる臨時休校は、私たち教職員にとりまして初めての経験であり、どのようにして生徒の学力保障と感染症防止の両立を図っていったらよいか、頭を悩ませている毎日です。そもそも学校は密接、密集、密閉の「三密」が発生しやすい環境にあり、また人と人との

距離が近いコミュニケーションが行われるところでもあります。

そのため、今回のように新型コロナウイルスによる感染症の場合は、感染力や症状の強さがよくわからないこと、有効なワクチンや治療薬がまだないことといったことから、感染防止にはより一層慎重になる必要があります。学校生活にも大きな制約を行わざるを得ません。

それでも、こうした生活を強いられる生徒に対しては、今こそ学びの機会があらゆるところにあるということをお伝えしていきたいと思っています。

例えば、ウイルスとは何かといったことや、人体の免疫の仕組みを生命科学の視点で学ぶことができます。一方、感染症がこれまで社会や経済に与えてきた影響や、さらには感染症に起因する差別や偏見をどうしたら克服できるかといったことを人文社会科学の視点で学ぶこともできます。

佐渡高校の生徒であれば、こうした逆境にあってもなおお尽きることにのまない探究心を持って困難に立ち向かっていってほしいと思います。同窓の皆様におかれましては、こうした状況にある後輩達に対し、ご支援を賜りますようお願いいたします。

## 令和元年度 同窓会総会

2019年5月1日より元号が令和に変わり始めるの佐渡高校同窓会総会が令和元年8月18日(日)にRyokan浦島にて開催され、佐渡全島から約130名の方にお越しいただき、総会・懇親会と盛会の末、無事終了させていただきました。

中山秀英会長の地元が担当ということで旧佐和田地区の四支部長と会長とで打ち合わせ

会を開き、準備に準備を重ね気合の入った感じで当日は臨みまし

た。総会では、平成30年度事業報告、決算報告、令和元年度事業計画案、予算案が提案どおり可決されました。その他事項では、陸上競技女子7種競技インタ



土屋美曇フラガさん 中山同窓会会長



総会の様子

ーハイ出場の土屋美曇フラガさんが沖繩旅費援助のお礼とインターハイの報告をしていたきました。表彰台には届きませんでした。浦島は38名中9位で土屋さんはまだ2年生で2年生の中では2位らしいが、今年はインターハイが中止になったので、開催されてい

らば、開催されていればどうなっていたかは悔やまれるところであり、会が始まりました。1度会う同級生や、部活動の先輩、後輩、仕事で付き合いのある方、佐渡に帰省している方が入り乱れて「俺たちの頃は良かった」

とかが「あの頃はよかった」とか「寄宿舎はど

うだった」とか会場はクレーターがさいているにもかかわらず熱気に包まれていました。時間

はあっという間に過ぎ、万歳三唱を同窓会副会長の末武正義さんにしていただき、閉会のあいさつは次期開催地区(小木、赤泊、羽茂合同)羽茂支部長の小橋徹磨さんにご挨拶

をいただきました。今年度は新型コロナウイルスの影響で中止となりましたが、楽しみにしている方もたくさんいるので、ぜひ来年は晴れやかな気持ちで佐渡高校同窓会総会が開かれることを期待します。

### 常若・幸福長寿の夕宴

令和2年1月30日(木)、本部評議員：関西支部上野の料亭 伊豆栄・梅川亭で摩尼義晴(昭和30年卒)をお招きし、「常若・幸福長寿」の夕宴会が催された。摩尼氏と知り合いの細田春野氏(昭和31年卒：東京支部)、古賀洋子(昭和41年卒、



### お知らせ

新型コロナウイルス感染防止のため、令和2年度の「佐渡高等学校同窓会総会及び懇親会」は中止となりました。また、関東支部総会・新潟支部総会も中止になりました。



懇親会の様子

# 第21回佐高同窓会 関東支部総会・懇親会を振り返って

昨年の9月29日(日)に開催された関東支部の総会・懇親会は、会場の学生会館に総勢120名が集う、盛大な会となりました。

記念講演には佐渡から曾我ひとみさん(昭和54年卒)をお迎えし、『拉致を風化させないために』と題し、ご自身のお言葉で拉致被害について語っていただきました。お話の内容を一言一句聴き洩らすまいと静まり返った会場には、ハンカチで目頭

を拭う出席者の姿が目につきました。

出席されたみなさんは、この日の講演を聴かれて改めて、拉致被害者の支援をしていきたいと口々に仰っておられました。

午後の懇親会は、相川金山や鶴子銀山の採掘に際して歌われていたという『やわらぎ節』で幕を開けました。

その後、中山同窓会長、遠間学校長、三浦佐渡市長(当時)からご挨拶を頂戴した後、松井副会長

の乾杯のご発声で宴会となりました。

演芸は、若波会の皆さんの佐渡民謡ショーにYAMATOさんのステージです。演芸と演芸の間には、曾我ひとみさんと写真撮影をする同窓生の姿が絶えず、座っている人より立っている人の方が多いという、大盛り上がりとなりました。

演芸の後は校歌を合唱し、同窓会本部事務局の川波先生による万歳三唱でお開きとなりました。

毎年、学生時代にはお会いしたこともなかった諸先輩方の温かい人柄に触れ、ホッと気持ちよが和む関東支部の同窓会です。今後とも、引き続きよろしくお願いたします。

さて、今年の関東支部の総会・懇親会は残念ながら、新型コロナウイルスの猛威の前に開催中止となりましたが、来年にはいつものように開催出来て、皆様のお元気なお姿を拝見したいと思っておりますので、よろしくお願いたします。

佐渡高校同窓会関東支部  
事務局 長 木村広幸 記



大場和範 関東支部長



中山秀英 同窓会長



松井夫佐子 同窓会副会長



本部事務局川波一八先生



三浦基裕 市長(当時)



遠間春彦 校長



佐渡高校校歌を歌う有志



YAMATOさん



記念講演講師  
曾我ひとみさん



若波会のみなさん



佐渡中学校校歌を熱唱する有志



やわらぎ節のみなさん



曾我さんとの記念撮影

## 回想 獅子ヶ城址とその周辺(続)

矢田有年 (昭和28年卒)

降る雪や 明治は遠く  
なりにけり (中村草田男)

我々の若い頃は、「明治は遠くなりけり」とよく言ったものだが、令和の新时代、昭和百年の言葉もちらほら見えてくる。

江戸時代が近世、明治が近代の時代は終わり、今は明治から昭和までが近代となっていました。

遠くなった昭和の戦前戦後の動乱の時期に活躍した佐渡中学卒業の先輩たちのことを書いてみようと思

法案大綱』を出版した。これが二・二六事件の若手將校に感化を及ぼしたとして、民間人として同士の西田税と2人、昭和12年8月19日銃殺刑に処された。時に54歳であった。墓は、原黒畑の勝広寺墓地にある。先祖代々の墓域に入れられぬままに。

平成、令和の現今、彼の国家主義的思想は、見直されつつあると言う。

軍人 本間雅晴

戦友等眠るバタインの山を眺めつつマニラの土となるもまたよし

新城家回顧より

悲劇の將軍本間雅晴中將は、畑野宮川の生まれ。佐中から陸軍士官学校、陸軍大学校を卒業、陸軍中佐となる。旧制中学校からの入学は特異だという。文学に長け、佐中には色々の激励の文章を送っている。「佐中第二校歌」の作詞者でもある。昭和13年陸軍中將となり昭和16年フィリピン方面司令官となり開戦。マツカーサーを豪州へ追い落と

とした。昭和18年予備役に編入された英国流の軍人であった。戦後「バタインの死の行軍」の責任を問われて銃殺刑になった。

昭和21年4月2日の事である。59歳であった。

栄えゆく御国の末を疑わず  
心ゆたかに消ゆる我はも

本間雅晴の墓地の石碑に刻まれている辞世の歌である。川崎市生田の春秋苑にあり、刑死の地マニラを思い出させるかの如く熱帯系の植物が植えられている。

文芸評論家 青野季吉

獅子ヶ城にて五十年のむかし  
し夢とりし池をそのままに

昭和三十年八月青野季吉

革新的評論家青野季吉は、明治23年2月24日沢根町で出生、家は廻船問屋であったが、相川暴動に会い家は壊され、船は焼かれて、苦しい家計であった。これが彼をプロレタリア思想に向かわせた一因であった。

佐渡中学校卒業後、上京して早稲田大学英文科を卒業、革新的な文筆評論家となった。佐渡関係の本は、新風土記「佐渡」がある。また五十里城が丘に「ペン

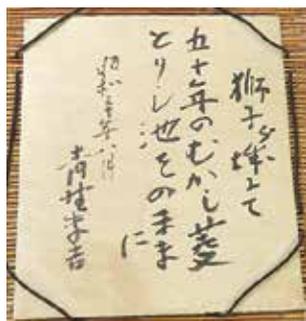
の碑」がある。これは昭和35年に郷友達によって建てられたものである。碑文は、「少年の日わたしはこの美しい入江の岸辺にほんやり立っていた 何を待つともなしに 季吉」昭和36年6月13日死亡した。東京小平霊園に埋骨されたという。

青野季吉の句  
令和2年6月 矢田有年氏寄贈

思想家 北一輝  
若殿に兜取られて負け戦 (評伝北一輝より)

二・二六事件の直後の北一輝の句である。一輝は佐中の卒業生ではないが、第1回の入学生で、眼病を患い、4年生に進級できずに自ら退学届けをだして上京した。中学1年の時の作文「彦成王の墓を訪う」では、少年らしい気概を述べている。東京で出版した『國体論及び純正社会主義』は発売禁止となっている。この頃、佐渡中学校へ「佐中生諸君に与ふ」という革命詩を送っている。

その後、中国革命運動に加わり、帰国後『日本改造



青野季吉の句  
令和2年6月 矢田有年氏寄贈

# 佐渡高等学校同窓会新潟支部 令和元年度定期総会・講演会・懇親会

佐渡高等学校同窓会新潟支部の令和元年度定期総会、講演会及び懇親会が10月27日、新潟市中央区のホテルで開かれ、新潟市内外から80人ほどが参加しました。

「佐渡高等学校同窓会新潟支部の令和元年度定期総会、講演会及び懇親会が10月27日、新潟市中央区のホテルで開かれ、新潟市内外から80人ほどが参加しました。」と、多くの同窓生らの支援に感謝しました。

また、今後を見据え、「もうしばらくすると130年。そのときはさらに学生の勉学に資するようなものを贈りたい」と引き続き、母校を支えたいとの思いを語りました。

次いで祝辞に立った遠間春彦校長は、「この春、校長を拝命した。電子黒板は大いに活用している。パソコンの画面を直接映せている。同窓会の先見の明によって、生徒たちの役に立っている」と感謝の気持ちを伝えました。

学校の様子については、部活動が活発だとし、陸上とソフトテニスの生徒がインターハイに出場したと紹介しました。また、佐渡の事業者に来校してもらい、職業講話を行っていることや、藻谷浩介さんが講師を務める「学校蔵」の授業で、生徒が発表したことをはじめ、文武両面で活躍している様子を説明しました。

総会の議事は飯平喜文事務局長が議案を説明し、平成30年度決算案などが承認されました。

「独歩（DOPPO）退院」を指すためのリハビリが重要だとしました。新潟でDOPPOを実践した和泉さんは「びっくり」と効果を実感。80歳以上の「傘寿者」に対し、ストレッチや筋力アップ、すり足などに取り組んでもらうことで、運動能力の改善がみられたと話しました。

講演の最後は「大事なことは、よく食べて、よく歩いて、よく笑うじじ、ばばをつくることだと思います」とユーモアを交え、締めくくりました。

総会ではまず、高野宏二郎支部長が「同窓会の目的は、会員同士の親睦を深めることと、佐高の発展にどう寄与するか。いかにしたらうまく同窓会を運営できるか、頭を悩ましています。まずは多くの人に総会に参加してもらいたい」と期待を示しました。

その上で「佐高の生徒のために何かするとなると、どうしてもお金が必要になる。ただ同窓会の年会費はなかなか集まりにくいのが実情。ぜひ同期や知り合いの方にお伝えいただきたい」と支援を呼び掛けました。

急遽に高齢化が進む日本において近年、メディアでも「フレイル」という言葉をよく目にするようになりました。和泉さんはフレイルについて「足腰が弱くなるだけでなく、気持ちの面、さらに社会とのつながりも弱くなってきた高齢者を指す」と説明。一方、「元に戻ることができる人たち」とも強調し、どういった対策が必要かを語りました。

北里大学時代を含め、多くの心臓病の患者を診てきた経験が踏まえ、「足が丈夫な人の方が長生きする。長生きするだけでなく、よい生活ができる」と指摘。

会場には、佐渡島内の酒蔵から寄贈された地酒がずらりと並びました。同窓生はさっそく注ぎつ注がれつ、杯を交わし、談笑する姿が、あちらこちらで見られました。

平成24年卒の男性は「同期同士では会うけれど、違う世代ではあまり会わない。同じ高校を出たということ縁を広げられたら」と総会を楽しんでいました。

総会では紹介された在校生の部活動について、平成24年卒の男性は「インターハイでの佐高の活躍を聞き、うれしい気持ちになった」と母校に思いを馳せていました。

総会では、長原支部長から支部の活動など開会の挨拶が始まりました。

続いて、中山同窓会会長が祝辞を述べ、「創立120周年の際に電子黒板を贈ったところ、すごい反響がありました。県の教育センター、市議の方々が授

業の視察に見えました」と多くの同窓生らの支援に感謝しました。

また、今後を見据え、「もうしばらくすると130年。そのときはさらに学生の勉学に資するようなものを贈りたい」と引き続き、母校を支えたいとの思いを語りました。

次いで祝辞に立った遠間春彦校長は、「この春、校長を拝命した。電子黒板は大いに活用している。パソコンの画面を直接映せている。同窓会の先見の明によって、生徒たちの役に立っている」と感謝の気持ちを伝えました。

学校の様子については、部活動が活発だとし、陸上とソフトテニスの生徒がインターハイに出場したと紹介しました。また、佐渡の事業者に来校してもらい、職業講話を行っていることや、藻谷浩介さんが講師を務める「学校蔵」の授業で、生徒が発表したことをはじめ、文武両面で活躍している様子を説明しました。

総会の議事は飯平喜文事務局長が議案を説明し、平成30年度決算案などが承認されました。

「独歩（DOPPO）退院」を指すためのリハビリが重要だとしました。新潟でDOPPOを実践した和泉さんは「びっくり」と効果を実感。80歳以上の「傘寿者」に対し、ストレッチや筋力アップ、すり足などに取り組んでもらうことで、運動能力の改善がみられたと話しました。

講演の最後は「大事なことは、よく食べて、よく歩いて、よく笑うじじ、ばばをつくることだと思います」とユーモアを交え、締めくくりました。

総会ではまず、高野宏二郎支部長が「同窓会の目的は、会員同士の親睦を深めることと、佐高の発展にどう寄与するか。いかにしたらうまく同窓会を運営できるか、頭を悩ましています。まずは多くの人に総会に参加してもらいたい」と期待を示しました。

その上で「佐高の生徒のために何かするとなると、どうしてもお金が必要になる。ただ同窓会の年会費はなかなか集まりにくいのが実情。ぜひ同期や知り合いの方にお伝えいただきたい」と支援を呼び掛けました。

急遽に高齢化が進む日本において近年、メディアでも「フレイル」という言葉をよく目にするようになりました。和泉さんはフレイルについて「足腰が弱くなるだけでなく、気持ちの面、さらに社会とのつながりも弱くなってきた高齢者を指す」と説明。一方、「元に戻ることができる人たち」とも強調し、どういった対策が必要かを語りました。

北里大学時代を含め、多くの心臓病の患者を診てきた経験が踏まえ、「足が丈夫な人の方が長生きする。長生きするだけでなく、よい生活ができる」と指摘。

会場には、佐渡島内の酒蔵から寄贈された地酒がずらりと並びました。同窓生はさっそく注ぎつ注がれつ、杯を交わし、談笑する姿が、あちらこちらで見られました。

平成24年卒の男性は「同期同士では会うけれど、違う世代ではあまり会わない。同じ高校を出たということ縁を広げられたら」と総会を楽しんでいました。

総会では紹介された在校生の部活動について、平成24年卒の男性は「インターハイでの佐高の活躍を聞き、うれしい気持ちになった」と母校に思いを馳せていました。

総会では、長原支部長から支部の活動など開会の挨拶が始まりました。

続いて、中山同窓会会長が祝辞を述べ、「創立120周年の際に電子黒板を贈ったところ、すごい反響がありました。県の教育センター、市議の方々が授

業の視察に見えました」と多くの同窓生らの支援に感謝しました。

また、今後を見据え、「もうしばらくすると130年。そのときはさらに学生の勉学に資するようなものを贈りたい」と引き続き、母校を支えたいとの思いを語りました。

次いで祝辞に立った遠間春彦校長は、「この春、校長を拝命した。電子黒板は大いに活用している。パソコンの画面を直接映せている。同窓会の先見の明によって、生徒たちの役に立っている」と感謝の気持ちを伝えました。

学校の様子については、部活動が活発だとし、陸上とソフトテニスの生徒がインターハイに出場したと紹介しました。また、佐渡の事業者に来校してもらい、職業講話を行っていることや、藻谷浩介さんが講師を務める「学校蔵」の授業で、生徒が発表したことをはじめ、文武両面で活躍している様子を説明しました。

総会の議事は飯平喜文事務局長が議案を説明し、平成30年度決算案などが承認されました。

「独歩（DOPPO）退院」を指すためのリハビリが重要だとしました。新潟でDOPPOを実践した和泉さんは「びっくり」と効果を実感。80歳以上の「傘寿者」に対し、ストレッチや筋力アップ、すり足などに取り組んでもらうことで、運動能力の改善がみられたと話しました。

講演の最後は「大事なことは、よく食べて、よく歩いて、よく笑うじじ、ばばをつくることだと思います」とユーモアを交え、締めくくりました。

総会ではまず、高野宏二郎支部長が「同窓会の目的は、会員同士の親睦を深めることと、佐高の発展にどう寄与するか。いかにしたらうまく同窓会を運営できるか、頭を悩ましています。まずは多くの人に総会に参加してもらいたい」と期待を示しました。

その上で「佐高の生徒のために何かするとなると、どうしてもお金が必要になる。ただ同窓会の年会費はなかなか集まりにくいのが実情。ぜひ同期や知り合いの方にお伝えいただきたい」と支援を呼び掛けました。

急遽に高齢化が進む日本において近年、メディアでも「フレイル」という言葉をよく目にするようになりました。和泉さんはフレイルについて「足腰が弱くなるだけでなく、気持ちの面、さらに社会とのつながりも弱くなってきた高齢者を指す」と説明。一方、「元に戻ることができる人たち」とも強調し、どういった対策が必要かを語りました。

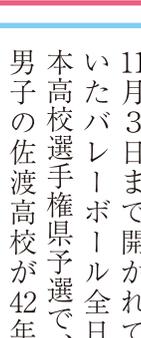
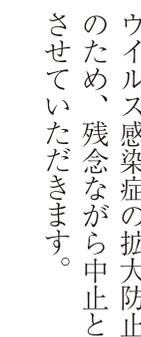
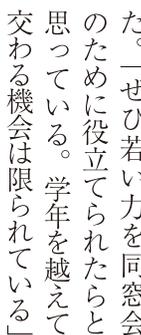
北里大学時代を含め、多くの心臓病の患者を診てきた経験が踏まえ、「足が丈夫な人の方が長生きする。長生きするだけでなく、よい生活ができる」と指摘。

会場には、佐渡島内の酒蔵から寄贈された地酒がずらりと並びました。同窓生はさっそく注ぎつ注がれつ、杯を交わし、談笑する姿が、あちらこちらで見られました。

平成24年卒の男性は「同期同士では会うけれど、違う世代ではあまり会わない。同じ高校を出たということ縁を広げられたら」と総会を楽しんでいました。

総会では紹介された在校生の部活動について、平成24年卒の男性は「インターハイでの佐高の活躍を聞き、うれしい気持ちになった」と母校に思いを馳せていました。

総会では、長原支部長から支部の活動など開会の挨拶が始まりました。



## 令和元年度静岡支部総会

今年も天候に恵まれ、雲ひとつない秋晴れの令和元年11月10日(日)、JR静岡駅前にある『ホテルセンチュリー静岡』を会場にして、静岡支部総会及び懇親会を開催いたしました。

当日は、来賓として佐渡より中山同窓会長と遠間佐渡高校校長をお迎えし、また、『北帰会』(愛知)より斉藤支部長のご出席を頂き、合計10名の参加でした。今年も少人数の総会でしたが、嬉しいことに新しい方が1名参加してくれました。

総会は、長原支部長から支部の活動など開会の挨拶が始まりました。

総会では、長原支部長から支部の活動など開会の挨拶が始まりました。

続いて、中山同窓会長から、少子化にともなう同窓会の在り方や同窓会としての母校との在り方など、今後の同窓会活動についての話をいただきました。

遠間校長からは、生徒一人一人が「夢の実現」に向けて頑張っていること、また母校の進路状況と部活動の活躍などのお話をいただきました。

本年度は、新潟市で11月3日まで開かれていたバレーボール全日本高校選手権県予選で、男子の佐渡高校が42年

ぶりに優勝を飾り、来年1月に東京で開催される全国大会(春高バレー)に出場との嬉しいビックニュースもありました。

記念写真撮影の後、懇親会に入り、高校時代の恩師との思い出や佐渡の近況など話が弾んでいきました。始終なごやかな雰囲気の中で、会員相互の交流や親睦を今年もいっそう深めることができました。

次回は、令和2年11月8日(日)、今年と同じ『ホテルセンチュリー静岡』で総会を開催することを確認し、健康で元気に再会できることを約して会を閉じました。

(昭和38年卒 高津道夫記)

# 第53回関西支部総会



令和元年十月二十六日(土)に関西支部第五十三回総会がホテルメルパルク大阪で開催されました。来賓として同窓会本部から中山同窓会長始め母校から四月に着任した遠間校長先生、長年交流している中部支部北帰会から渡邊事務局長のお三方を、お迎えして有意義な総会が開催出来ました。当初二十六名の参加予定でしたが、健康上の都合で最終的に総勢二十五名参加の総会となりました。藤木支部長の挨拶の後、来賓三名様からご丁寧なご挨拶を頂きました。中山同窓会長からは日頃の同窓会活動の協力に対するお礼の言葉や創立百二十年周年記念事業で設置した各教室の電子黒板の評判が良く、今では佐渡市の小中学でも設置が進んでいる話がありました。遠間校長からは四月に着任した挨拶と資料を持参

頂き佐渡高校の現状について少子化の中で在校生の文武両道の活躍をご説明頂きました。中部支部の渡邊事務局長からは北帰会の高齢化の中で活性化を図るため「北帰会たより」等を発行している苦労話や今後も関西支部と協働していきたいとの話がありました。総会では関西支部の決算報告や活動報告の審議を行い満場一致で承認されました。第二部の懇親会では、須藤幹事長の挨拶と乾杯の発声で宴席開始。一息入れたところで出席者全員が自己紹介や近況報告等で情報交換し、皆さんしよう舌な話や余興のバイオリン演奏で「校歌」や「故郷」では皆さんが口ずさみ、紙しはいでは「柿」といえば佐渡のハッチンで佐渡の名産ハッチン柿のルーツ等を知り皆さん興味深く鑑賞しておりました。カラオケタイムでは高齢のご婦人が美声を発揮して拍手喝采を受け、和やかに親睦を図りました。

関西在住の同窓生の皆様、今回は令和二年十月二十四日(第四土曜日)に総会及び懇親会を開催致しますので、より多くの会員のご出席をお待ちしております。最後は同窓会の発展と会員皆さんのご健勝とご多幸を祈念して一本締めで閉会となりました。

関西支部事務局  
板倉 健 (37年卒記)

## 高校時代の思い出

柏倉 淳一 (昭和41年卒)

私は高千中学校の出身で自宅から通学することが出来ませんでしたので高校時代は寮生活をしました。高千に限らずバスや自転車などで通うことが出来る相川や国仲地方の人達を除いては寮に入るか下宿をしなければならぬ人が多くいました。当時の在校生の三割から四割の人が自宅外通学者だったのでないかと思えます。寮費は昼食の弁当も含めた三食付きで月五千円位、下宿の場合は二食付きで六千円前後だったように思います。高校の授業料は月八百円、河原田の町で食べたラーメンは三十円か五十円だったと思います。

現在とは貨幣価値が違うと思いますが日本はまだ貧しい時代で中学を終えたと就職する人も数多くいました。小さな農家の家計で月何千円もお金を出すことは決して楽なことではなかっただろうと今は思っています。

三年間お世話になった寮は冬には窓の隙間から雪が入りこむような古い建物でした。二十畳前後の部屋が十二室あり三年生から一年生迄五、六名から七、八名が一緒に生活する中で窮屈なことも多くありましたがそれ以上に学んだことが多かったと思います。先輩・後輩の上下関係はかなり厳し

いものでしたが理不尽な叱責などは少しもありませんでした。年間を通して六時起床・十一時消灯でしたが消灯後も修養室という点灯が許されている部屋で勉強を続けて難関大学へ進んでいく先輩が何人もいました。

寮時代のひとコマとして小木出身のK君から聞いた話です。外出禁止時間に先輩からパンを買ってきてほしいと頼まれたK君は町へ降りていく途中で舎監のW先生に会ってしまいました。その時の会話です。「K君この時間にどこへ行くのかね」「はあ先輩がパンを食べたいと言いますので」「もしかししたら誰か風邪気味の人がいて薬を買に行くのではないかね。」「はあ実はそうなのです。」「よしもう一度やり直そう。」

「K君はどこへ行くのかね。」「はい、部屋に風邪気味の人がいて薬を買いに行きます。」「そうか気を付けて行ってきなさい。」と見逃してもらったそうです。W先生は後に校長になられた渡部昭三先生ですがこのような先生方に私達は日々教えを受けていました。私達の卒業後何年かして寮は募集停止になりましたが、その

ことも含めて寮に関する詳しい記憶が百年史に掲載されています。今も寮出身者の集いが何人かの方のご尽力で毎年東京で行われ佐渡からも必ず出席して下さる方がいます。強く引き付けられた授業や先生方のごなどに触れることが出来ませんでしたが高校時代はとも懐かしい思い出です。

## 受用寮・関東支部祭開催

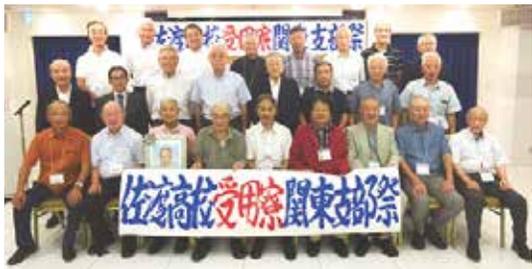
通学が困難な地域出身の男子佐高生のためにかつて用意されていたのが受用寮です。1年生から3年生が一つ屋根の下で集団生活をするわけですから悲喜こもごもの想いを分かち合います。その絆は固く、首都圏のOBは年に一度集まり、旧交を温め、互いの健勝を確かめあっています。昨年9月12日の会は、青山のアイビーホールで開催され、S27年卒の菊池慶喜様からS43卒の倉田節生様まで総勢28名が参加し、盛大に開催されました。

活の想い出、佐渡の暮らし、産業振興に対する提言をされる方、皆想い出の発表をしたり、年代別に区分けした円卓では昔話に華が咲きました。

今回の圧巻は佐高出身のRulyこと「佐々木ルリ子(S55年卒)」チームによる「ベリーグダンスショー」。本場エジプト仕込みのエキゾチックなダンスの数々を堪能させていただきました。

最後は恒例の寮歌・デカシヨ合唱で会を締めましたが、ご参加の皆さまの澄刺とした笑顔を見るにつ

「たらしねの 母がかたみと あさゆふに 佐渡が島を うち見つるかな」 良寛を生んだ母は佐渡相川の人 十七歳の時 親戚出雲崎の名主橘屋の養女に やがて婿を迎え 生まれた長男が後の良寛



永遠の青年たちの笑顔!!

## 母の島

倉田 史子

ぼうぼう海のひろがり 海鳥の気配すらない水の面 まどろみから覚めると ほんやり山のかたちらしきものが目に入った ずっしりと光る地塊 白い氷雪の島が近づくと この島の裏側 海岸風景の美しいところ むかし金銀鉱山で繁栄した集落相川があった 江戸三百年を潤した鉱脈 あふれる島の人口 その来し方を語り継ぐ郷土博物館の脇に ぽつんと素朴な石碑が建っている

銅板に彫られ石におさまっている肉筆の一首 越後出雲崎の海岸に朝夕立って 海のむこうの佐渡を眺め 母を恋い素直にうたった和歌は胸に響く だが歌人でも書家でもない生き方を貫いた 死期の近い母の見舞いで渡った越佐海峡 海面をみぞれまじりの雨が打つ 光る仏性を内に秘め世を駆け抜けた良寛を わたしは日本海の黒いうねりの奥に視ていた 佐渡が母という想いがこころを温かく包み始めた 国民文化祭2019新潟「詩フェスティバル」 新潟県知事賞受賞作品

# 将軍と私そして父

## (没後75年によせて)

荒木朝光(昭和32年卒)

これから記すことは75年ほど前の話である。皆さんは、本間雅晴中将をご存知であろうか。佐中、陸軍士官学校を首席で卒業され、秩父宮殿下御付武官として欧州に随行し、その後も各国の駐在武官として活躍された方である。帰国後は陸軍の中樞を歩まれ、最後は陸軍中将にまで登りつめた方である。長い海外生活で培われたセンスと流暢な英語を駆使され当時の軍部では稀に見る国際派であった。まさに佐中が生んだ稀代の天才であった。

生前の将軍にお会いした人はもう皆無であろう。幸いにも私は、お会いする機会に恵まれたのです。

私の記憶に留めるのではなく過ぎさつた時を書いてみようと思ったのです。お会いした折の光景が今でも鮮やかにまるで走馬灯の様に蘇ってくるのです。佐渡へ疎開して間もなく母が、「今日は、偉い人にお会いしますからね」と言われ本間邸にお邪魔した。

将軍は、玄關の大広間で食事中であった。抜きん出て大きく私はひと目で将軍と分かった。母と話し終えると私の前に正座した。私は、極度の緊張で直視できず、ただ将軍の胸元を凝視していた。「名前は？」と問われ「はい、あきあき

みつでございませう」と大きな声で答え、上目遣いに将軍を一瞥した。そこには威厳のある、そして柔和な顔があった。膝元に私を引き寄せ諭すように何事かを話し始めた。巨体から醸し出される雰囲気には私は、明らかに興奮していた。何を話されたのか全く上の空で覚えていなかった。最後に将軍は、大きな手をずしりと私の頭上に置いた。私は軍の階級は語んじていたので、これが中将の重みなのかと思ひ、密な高揚感に浸るのであった。お暇してから母に「何をお話していたの」と問われ返答に窮した。

実際に何も覚えていなかったのだ。ただ「ご挨拶は良く出来ましたね」と言われ妙に嬉しかった。

お付の武官に送られ門外に出るとふーっと大きな溜息が出た。振り返ると直立不動の姿勢で笑みを浮かべ敬礼をする武官がいた。私は、とっさに小さな手で返礼をした。私が6歳のときである。

さて、父の実家である真野町金丸の田辺家について触れなければならぬ。長兄田辺三郎(校長歴任)次兄朝之衛(畑野町本間家へ婿入、元佐渡高校同窓会長)三男千代吉すなわち父は(東京荒木家へ婿入、比島にて戦死、陸軍軍医 中

佐・享年38歳)末弟弥代吉(ピルマにて戦死、享年29歳)実に4人兄弟の内2人が戦死という悲運な兄弟でもあった。次兄朝之衛が婿入りした本間家は大変な素封家であり、将軍の生家はその分家であった。将軍は滞在わずか2日という日程の中で田辺家を訪れ、すでに戦死していた四男弥代吉の霊前で長く頭を垂れていたという。戦況は切迫しており、早々に帰京しすぐさま前線へ赴いたのである。家族への最後の別れであったのであろう。

田辺家には、将軍直筆の立派な屏風がある。高校時泊まりに行き座敷の屏風の前で寝た。眺めているうちにこれが父や叔父の命の代償なのかと一瞬頭をよぎるのであった。

校長室にも将軍の書があったと記憶している。戦後将軍は「バターンの死の行進」の責任を問われ多くの入達の嘆願にも拘らず比島で処刑された。

『前夜ステークを所望しペロリと平らげ処刑当日「さあこい」と最後の言葉を発した』(角田房子著)つさい夢に(ごさ候より)私はそこに毅然とした。そして、凜とした将軍の生き様を見るのである。銃殺刑であった。この刑は、刑の中でも最も高位な刑であり(絞首刑等々に比べて)戦犯の殆どが一段下の絞首刑であった。米国もそれなりの配慮をしたのであろう。その報を聞き私は驚愕し、わずか1年半前にお会いしたのにと暗澹たる気持ちにな

なった。その前後の事を知りたくて私は、留学時にワシントンの国立公文書を訪ね「General Honma」の資料を捜したが未公開であった。昭和38年のことである。元日銀総裁の澄田智氏は、かつて薫陶を受けたということ日経新聞の「恩人」というコラムで次のように述懐している。

「草深い村を分けて処刑された場所を訪れた。本間中将の墓碑は石像で英語と日本語で本間氏を偲ぶ文が書かれていた。その近くには「マレーの虎」と言われた山下奉文大将の碑があったが木製で半ば朽ちかけており、本間氏の碑に比べ失礼ながらかなりの差があった。戦前は、日本では本間氏よりも山下氏の方が有名であったにも拘らず人生の有無転変は誠に厳しいものだなあと思つた。本間中将の碑の前にぬかずき生前果たせなかつたお礼を申し上げた。(「恩人」より抜粋)

氏もまた将軍の死を深く悼んだのである。石碑はかつての部下たちが浄財を集めて建てたものと聞いた。将軍がいかに人々を魅了する人物であったかを如実に物語っている。角田氏もその人間性に興味をいだき著を書いたものであろう。私も一度の邂逅だったけれど生涯畏敬の念を覚える方だった。

そんな中私はふと考えた。将軍の終戦までの足跡を見る内にひよっとして私は最後にお会いした少年ではないかと思ひ始め、それは今もつて変わることはない

のである。将軍も父も二度と佐渡の地を踏むことはなかった。昭和21年のことである。私たち一家が父の故郷である佐渡へ疎開したのは、昭和19年の事であり、その後の東京大空襲で家は焼失し6歳の私にはこの上ないショックであった。祖父と父は医師で東京小石川で開院していたが、父が召集された。4人の子どもをもち30代半ばの父が何故召集されたのか不可解であったが、多分に医師不足であったと推察される。その後祖父が畑野町で医院を開いた。祖父が将軍のご母堂を診たということも聞いていた。私はといえは知らぬ町での不安があったが、そんなことは杞憂に終わり近所の友はすぐに打ち解けてくれた。祖父が亡くなる迄の6年間を過ごした。そこで

の友との楽しい時間を共有できたことに私は心からの感謝を伝えたい。私が小学1年の晩秋に父の計報が届いた。20年7月に戦死とは終戦僅か1ヶ月前であった。父の死は、比島レイテ島の守るために8万3千人の兵の内8万人が犠牲になつた。悲惨な戦場であった。大本営の愚策でありまさに犬死だった。かつ無能なレイテ島の司令官はその責任も取らずにひそかに脱出し、日本に戻り戦後も悠々生きるといふ。何をかいわんやである。かような司令官の下でも必死に戦つた兵達の心情を思おうと涙を禁じえない。レイテに限らずどの戦場でも高官達は戦況が

不利とみると戦場をエスケープしたのである。これが戦争というものであった。昭和21年父の葬儀の後、深夜私は祭壇の骨箱を密かに自室に運び空けてみた。妙に軽かったのである。中には紙切れが入っているだけであった。国の為に命を賭けて戦つた人間に対するこれが答えなのかと私は啞然とした。

写真でしか知ることのなかった父が不憫に思えて号泣した。怒りがこみ上げてきて骨箱を思いっきり投げやつた。ただ泣きじゃくつてきて私を抱いた。今でも父の幻影を見るが、これも哀しい性なのであろう。父の遺骨は今もつてない。

後年、母と私は麻布の菩提寺のお墓の脇に父の小さな碑を建てた。これが私たち家族の終戦の日であった。過去に幾度となくレイテを訪れたが、島のどこにも戦いの痕跡はなく、赤いブーゲンビリアの花が咲く美しい島であった。かのマッカーサー元師が発した有名な「I shall return」は、レイテ島に再上陸する際の言葉である。これを機に日本は崩壊への道へと進むのである。

暮れなずむマニラ湾の夕日に

奇しくも同じ比島で亡くなった将軍と父は私たちに何を問いかけていたのであろうか。未来は予見できないが、あの忌まわしい過去をも凌ぐ悲しみに震える時が、また巡ってくるのであろう。

歴史は繰り返されるのである。私も鬼籍に入りました父の二倍の生をもらいました。そう遠くない日に私は、将軍と父、そして叔父と杯をかわし、将軍にあの折なんとおっしゃつて下さったのか今一度問うてみたいものです。

これは、無念の死を遂げた将軍と父そして叔父への私の Regiment である。



「僕の学校を君に紹介ませう」



令和2年5月 本間彰氏寄贈(昭和34年卒)

本間雅晴中将(昭和38年卒)から同郷の本間(中村)嘉市氏(明治41年卒)へ。

維持会費納入者一覧表

Table listing members of the maintenance fee payer, organized by year of graduation (e.g., 昭19卒, 昭20卒, etc.) and including names and family names.

昭35卒

昭36卒

昭37卒

昭38卒

昭39卒

昭40卒

昭41卒

昭42卒



# 佐高昭和44年卒業「獅子の会」 卒業50周年記念古稀同期会始末記

令和元年10月27日(日)に、両津夷のホテル「天の川荘」において、昭和44年卒業「獅子の会」の同期会が開催されました。

平成6年から12年まで毎年11月に行われていたのですが、その後はなぜか全く声があがりませんでした。

令和元年は卒業50周年、古稀の年でもあり、今年はずいぶんねばりと、担当と思われる真野地区の方々に打診しましたところ、「お前と野口君に任せる」と言われました。

両津の野口雅史君は同期会請負人で、二つ返事で幹事長を引き受けてくれました。5月に天の川荘で会い、日時、会場、会費等を相談しました。

発起人には、同ホテル職員の柴田茂君、相

川藤木大豊(都史)君(女性)は佐和田の関口(渡辺)紀子さんにも加わってもらいました。出欠の往復葉書を出すにはまだ間があるので、まず8月に発行される「同窓会報」に案内を載せていただきました。

19年ぶりの同期会で、いろいろ記念の年でもあり、これまでにない立派な同期会にしようと、島内の幹事を6人増やし、島外の天澤敬生君(多摩市在住)にも特別幹事になってもらいました。

野口君は三年の時に私と同クラスで、名簿作成とか事務、交渉に長けていて、佐渡汽船に勤めていたからではありませんが、彼に任せれば大船に乗った気持ちになります。

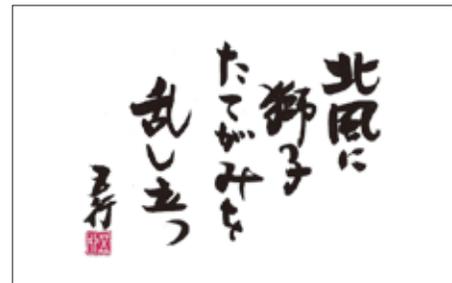
天澤君は羽茂出身で、小学校からの友人です。3年前に羽茂中の卒業50周年の同級会を、共に幹事として頑張りましたので、写真やアルバム等パソコン関係は彼がいれば百人力です。

私はといえば写真と会計、関口さんと当日の司会という、おいしい役どころです。幹事の12人が何回も集まって、式次第や同期生の消息、住所を確認しました。野口君の名簿作りは微に入り細にわたる、三四五名の住所がわかりました。往復葉書の宛名はみんな得手書きです。出席してもらえよう気持ちを込めて書きました。

会場のホテル「天の川荘」の六階はテーブルの配置から60名が限度で、それより多かったらどうしようとか、逆に台風が来てキャンセル

ルがあつたらどうしようとか、心配性の私は野口君からの出欠の葉書の報告の度に、心配が募っていきました。

会費も千円安くしました。ちゃんといた



が、ちゃんといた

## 第43回北帰会総会

令和2年2月11日(火) 皆様のお陰様で5号まで発行することが出来まし

事務局 渡邊 拓人

本年は初参加の加藤さん、紫苑会より遠間さん、永田さん、田中さんのご参加をいただき例年以上に盛り上がった総会となりました。

ご多忙の中、遠方の名古屋の総会にご臨席いただいた中山同窓会会長様、遠間学校長様には、心より感謝申し上げます。

遠間学校長からはバレーボール部の県大会での活躍、在校生の現況、生徒の様子、教育の取組状況、電子黒板を活用した授業等詳しくご報告いただきました。

総会にご来賓の皆様を囲んで例年どおり母校の思い出や佐渡の話、また、ご出席の皆様のご近況報告に盛り上がり、時の経つのも忘れ楽しい一日となりました。

川村会員の乾杯で始まり、笑顔の絶えない懇親会、静間会員の静間めぐみ、母校校歌斉唱と滞りなく終わることが出来ました。本年は「北帰会だより」第5号を発行しました。



TEL: F.A.X (0259) 636281 赤塚五行(駿河守)記

# 三四郎の母の手紙

齋藤 明雄 (昭和46年卒)

佐渡高校を卒業後、進学や就職によって島を離れ、独り暮らしを始める人も多いかと思う。今と違って通信手段の発達していなかった昔は、親子の連絡はおもに手紙であった。親、特に母親は、子を案じてせつせと手紙を書き、一方、子供の方は筆不精でなかなか返事を書かない。そんな場面を、夏目漱石は『三四郎』に描いている。

東京の大学に入学した三四郎の出身地は福岡県京都郡真崎村となっている。農家の一人

これを読んだ三四郎は、「なんだか古ぼけた昔から届いたような気がし、母にはすまないが、こんなものを読んでいる暇はない」と思っている。一つの世も親の気持ちは子供には理解されない。

母はさつそく息子に、体を大事にせよと手紙に書く。近所の人の近況や米の収穫状況(当時の大学は秋入学であった)も知らせてやった。それから、東京の人間は人が悪いから用心しろと注意喚起し、野々宮宗八という人を探ねてよろしく頼めともいつてやる。最後に、三輪田の御光さんがアユをくれたことをさりげなく追記した。

で、漱石が私の母のことを書いていることに驚かざるを得なかった。母はよく、「嫁さんは佐渡のものはいっぱい。他国のものは心がわからんし、いやつちや」といつていたからだ。また、三四郎の母は野々宮さんあてに、息子が世話になるからといって赤魚の粕漬を贈ったが、私の母も東京の親戚に、世話になると米や野菜、ワカメなどをせつせと贈っていた。

三四郎は初め、母の手紙を煩わしいと思っただ。しかし次第に感謝するようになる。それは、東京があまりおもしろい所ではないと感じ、一人でおさきこむようになったことによる。

「母は本当に親切なもの」と三四郎は思うのである。

三四郎はやがて、「この冬休みには帰って来い」という命令調の手紙を受け取ることになる。例の御光さんが女学校をやめ、三四郎のために綿入れを縫ってくれたというのである。そのころ三四郎には思いを寄せる美禰子という女性がいたが、美禰子は突然、三四郎の知らない男と結婚してしまう。落ち込んだ三四郎が下宿に帰ると、母から「何時立つ」という電報が届いている。

小説はここで終わってしまふので、三四郎がそれからどうなったかはわからない。流れからすると、三四郎は九州に戻って農家の跡を継ぎ、御光さんと結婚した可能性が考えられる。地元の名士としても活躍したかもしれない。実際、漱石が『三四郎』の次に書いた小説『それから』には、主人公・代助の大学時代の友人で但馬出身の男のことが書いてある。彼は卒業後、国元へ帰り、結婚し、町長に推されている。そして時々、代助にアユなどを送ってくれるのである。アユは御光さんが三四郎の母にくれた魚であった。三四郎がアユの獲れる郷里に戻ったことを暗示しているのではないだろうか。

## 第34回紫苑会関東支部総会・懇親会

第34回紫苑会関東支部総会・懇親会を、令和元年6月16日(日)東京都新宿区ホテルグランドヒル市ヶ谷で、開催いたしました。

ご来賓2名、参加者40名(男性16名、女性24名)が集い、紫苑会員の親睦と年代(世代)の時空を超えて、親交を深め、有意義な一日となりました。

総会は、支部副支部長本間淑人(S39年卒)の司会により、飯平支部長(S41年卒)の挨拶で始まり、

ご来賓挨拶では、山本茂様(元金井町助役S37年卒)の佐渡ヶ島の現状や朱鷺の様子など、続いて、会計及び監査報告(監査役・須崎桂子S47年卒)が承認され、参加者全員による記念の写真撮影となりました。

第2部は、講演 桑原茂樹様(S40年卒)の、日本ミシユランタイヤ(株)の設立と同時に参加し、また、日本市場でのラジアルタイヤの販売拡大にも東奔西走し、約38年間の

勤務を短縮した、人生一筋の貴重なお話をして頂きました。

第3部は、懇親会 司会・堀孝二郎(支部相談役S38年卒)による、乾杯の音頭を、荒井敏彦様(支部顧問S36年卒)にお願ひし、続いて、懇談。(NHKの「いだてん」で佐渡おけさが8月18日(日)に放送されることが決定された報告(紹介)等)

1 アトラクション

(1)おけさ友愛会、朱鷺おけさ会、佐渡

おけさの輪踊り (2)春駒演武、山本茂様(S37年卒)

宴は、最高潮に盛り上がりました。

2 校歌斉唱(参加者全員による)

最後に、閉会の言葉、飯島美孝様(支部最高顧問S29年卒)により、会員各位、健康に十分留意され、来年も元気で、お会い致しましょうとのなごやかな雰囲気の中で終了となりました。

記 紫苑会関東支部役員 飯平 孝 (昭和41年金沢高卒)



## 34年卒同期会報告

「佐渡でやる最後の会だよ、記念すべき60周年なんだから集まろうよ」との誘いの言葉で集まった同期生は52名。時は2019年10月8日、ところは窪田の割烹旅館浦島。同館は料理がうまうまその上おかみを始めとした「おもてなし」も申し分なしとして過去2回の同期会でも利用してきたところ。会は少々くたびれ始めた年ごろを忘れたかのようには賑やか且つ楽しい裡に進行した。自己紹介で「糖尿なんか忘れて今日飲むぞ」と宣言した剛の者や60年前に淡い恋心を感じていた相手に出会い、嬉しさを顔いっぱいに出している。幸せ者もいた。

として安堵と共に感謝の念いっぱいである。盛会の裡に終わった同期会だが実行決定までには幹事の中に様々な意見がありなかなかまとまらなかった。島内在住の12名がなんと12回も集まって話し合いを重ねてなんとか座礁することなく実行に漕ぎつけた次第。それだけに後日集まった反省会では喜びの声が多く出ていた。

ところで、最近有志が集まった際にその中の人から10年後にまたやろうかという声が出た。さすがにその場で賛同するものは出なかったが、もしかすると提案者は10年たったら九十歳だからそのことを記念として本当の「卒業」としたいと考えたのかもしれない。

記 小田健次郎



翌日は希望者を募ってこれまで「牡丹寺」として親しまれてきたが今では「うさぎ観音」で全国的に名をはせた長谷寺を訪問し同期会の幹事でもある住職の講話を聴いてから両津港へ行きそこで散会した。

今や「70代を年寄りと呼ばない都市宣言」をするところまで現れる時代ではあるが、52名の「壮年」が一人の脱落者もなく帰途につけたことには幹事

# 『佐渡の「宝」支援プロジェクト』 活動報告

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため外出の自粛を求められ、帰省やアルバイトができない佐渡出身の学生を励まそうと、寄付を募り佐渡産品を仕送りする『佐渡の「宝」支援プロジェクト』を、本校卒業生を中心に有志で立ち上げ、本年5～7月に活動を実施しました。

当初は数十名程度の学生を支援する目的で始まったこのプロジェクトですが、佐渡市HP、新聞、ラジオ、SNS等で広く取り上げられるなど大きな反響を呼び、多くの皆様から我々の予想を上回る計2,114,000円の善意の寄付をいただいたおかげで、全国の佐渡出身学生377人に対し、佐渡米、果物、海産物、お菓子・かりんとう等、佐渡らしく心温まる佐渡産品と励ましの手紙を送ることができました。

仕送りを受けた学生からは、「佐渡を思い出してほっこりした」、「中身を見た瞬間懐かしく感じた。お手紙の内容もとても感動した」、「佐渡を出た自分のことを親身になって考えてくださる人たちがいると感じられた」といったお礼の手紙やメールが多数届き、「若い人に佐渡生まれの”誇り”を感じてほしい。」という我々の願いが、学生にも伝わったものと思います。また、活動を通じ、佐渡島内の事業者の方々や郵便局の皆さん、ボランティアで荷造りを手伝ってくれた「てのひら教室(＃さど中高生学習支援プロジェクト)」を運営する現役大学生等から、多くの賛同の声と様々な御支援を受けたことは、「持続可能な島づくり」を目指す佐渡の将来にとって大きな希望の光が見えたような気がします。

なお、仕送り希望や寄付の受け付けは、6月18日をもって終了となっております。

御支援・御協力いただいた皆様にこの場を借りて厚くお礼申し上げます。

『佐渡の「宝」支援プロジェクト』  
設立発起人・賛同者一同



新穂支部総会 令和元年9月6日 於 JA 佐渡新穂支店

## 佐渡からの五輪選手・ 齋藤兼吉さん(第14回卒)

小山康夫(昭和56年卒)

今からちょうど百年前の一九二〇年(大正九年)第七回アントワープ五輪大会が行われた。日本人としては一九一二年(大正元年)初出場したストックホルム大会以来、八年ぶり二回目の出場である。加納治五郎団長をはじめとする選手団の一人に陸上と水泳でエントリーされた相川出身の齋藤さんがいた。齋藤さんは幼い頃から成績優秀、スポーツ万能で、佐渡中時代には相撲、柔道、剣道、陸上競技、水泳、野球、端

では実に四回も日本新記録を樹立している。足も速く、校内マラソン大会で上位入賞を果たした為、あの金栗四三氏にマラソンに転向しないかと再三に渡り誘われたそうだ。一九一六年(大正五年)全国水泳大会に出場し五十ヤードで優勝、東京芝浦で行われた極東大会では陸上競技にも出場し、五種競技、やり投げ、円盤投げで優勝し前人未達の離れ業をやつてのけた。齋藤さんの名前は広く知られ渡り「水陸両棲選手」「東洋の齋藤」と謳われ、佐渡中を一躍有名にし、佐渡全島の人々に大きな光明を投げかけ、母校佐渡中の生徒にも大きな勇氣、

自信と誇りを与えた。一九一九年(大正八年)には水泳講師として佐渡中に招かれ、全校生徒に水泳の指導を行い、熱烈な歓迎を受けた。一九二〇年四月、新潟師範(現新潟大)を会場に行われた五輪北陸予選会に出場、二百m陸予選会に出場、二百m千五百m、走り幅跳び、円盤投げ、砲丸投げの五種目全て優勝し、楽々と予選を通過した。同年四月、東京芝浦で行われた五輪最終選考会では水泳、陸上全てに優勝し五輪出場を手中に収めた。五輪大会では長旅の疲労と練習不足から陸上は棄権し、水泳の百m自由形、四百m自由形に出場したが、当時の日本ではまだクロールが導入



齋藤兼吉氏

されておらず、古来の泳法で出場し大敗を喫した。帰国後、欧米視察をして日本に近代泳法を広めて行った。一九四六年(昭和二十年)には母校佐渡中で陸上部顧問として生徒の指導に当たった。後に晩年は中央大学の教授に推薦され赴任したが、一九六〇年(昭和三十五年)胃がんの為その生涯を閉じた。

## 昭和38年卒同期会・事務連絡

同期の皆さん、お達者で過ごしてでしょうか。今回、佐渡が当番という同期会。喜寿を兼ねての開催について、数年での前倒しでやるか、それとも満年齢とするか、ハテどうしたものかと迷っていたら新年早々に山本(本間)雅雄君から「いつ開催するの？」との催促の連絡が、そして、ほとんど若林治尚君からは「今年に開催するの？真野中学の同級会幹事を仰せつかっているの、やるとなると調整しなければならぬから！」の照会がありました。年明け、小生の方にも事情がありまして、前述の開催の有無で迷っていたのは昨年の11月上旬の頃まで。その後数回の病院通いで12月16日の切腹をドクターから宣告され、覚悟をきめて臨んだオベ。お二人からの連絡はその後の静養中のさなかでした。

そこで、山本君には事情をメールで説明し、また、若林君にはオベ後の体調を説明し「お先にどうぞ」との返答を了解を得たという次第です。なお、山本君には満年齢での開催を、そして、来年のお盆くらいを目途に考えている旨を伝えておきました。その思いは、いよいよ後期高齢者の領域にあり、足が実家から遠のいてしまつていたり、代替わりをした主と何かと疎遠になつてきているのでは？との心配りからでした。お盆での開催は、実家のご仏前に遠慮することなく手を合わせられる絶好の機会と考えたのですが如何でしょうか？お節介が過ぎましたか？ところで小生、このお歳になつて通算4度目の切腹。ひと(他人)は言います「おまえ、生き汚いナ」と。やっとな張つて今があるのにひどい言葉と思いませんか？折角生まれてきたのですから、例えじい(爺)といえどもこの世を謳歌しない手はありません。そう、わが人生、守りではなく常に攻めを貫いてきました。とは言うものの、今回の切腹で「憎まれじい、世にはばかる」の自信が少々揺らいできたような、地味いけなくなつたような弱気な雰囲気漂つている昨今です。お歳でしょうか。

皆さんは体調は如何ですか？全く健康そのもので異常なしと言える方々は羨ましいですね。その元氣な姿を来年のお盆に見せて下さい。そして小生に「あんた、だれ」なんて言わないようこの一年をお互い頑張りましょう。思うに「恍惚のブルース」と聞けば憧れの心境？ここに悟りを開けば人生の悩み何もない、ただニコニコと送る日々は楽しいことばかりか？？そこに至る前兆の有無は？特に前触れの有無をその方々にお聞きしたいのだが無理だろうか！「ある日突然なつちやイヤハヤである。」

以上、独り言をかねて来年開催の事務連絡とします。

若林(安福) 記

Table with 10 columns listing names and birth dates of members. Includes a vertical label '春高バレー 寄付者名簿' on the right side.

Table with 10 columns listing names and birth dates of members.

Table with 10 columns listing names and birth dates of members.

Table with 10 columns listing names and birth dates of members.

Table with 10 columns listing names and birth dates of members.

Table with 10 columns listing names and birth dates of members.

Table with 10 columns listing names and birth dates of members.

Table with 10 columns listing names and birth dates of members.

Table with 10 columns listing names and birth dates of members.

Table with 10 columns listing names and birth dates of members.

Table with 10 columns listing names and birth dates of members.

Table with 10 columns listing names and birth dates of members.

Table with 10 columns listing names and birth dates of members.

Table with 10 columns listing names and birth dates of members.

Table with 10 columns listing names and birth dates of members.

Table with 10 columns listing names and birth dates of members.

Table with 10 columns listing names and birth dates of members.

Table with 10 columns listing names and birth dates of members.

Table with 10 columns listing names and birth dates of members.

Table with 10 columns listing names and birth dates of members.

Table with 10 columns listing names and birth dates of members.



### 春の高校バレー 第72回全日本バレーボール高等学校選手権大会出場

男子バレーボール部の全日本高等学校バレーボール選手権大会(春高バレー)への初出場に際して、同窓会の皆さまをはじめ多くの方々から、物心両面にわたり支えていただき、心からお礼申し上げます。

令和2年3月12日現在、二千六百五十万二千九十二円もの支援金を頂戴いたしました。

ご支援に感謝するとともに、同窓会関係者をはじめ支援金募集にご協力いただいた方々に重ねてお礼申し上げます。

頂戴した支援金は、男子バレーボール部の出場経費と強化費に約七百万円、応援団派遣補助に約五十万円、応援グッズ作成及び記念品等総務費に約二百五十万円を支出しました。

3月13日に同窓会監事濱田毅様とPTA副会長の笠木淳一様から会計監査をいただき、適正に執行されていたことを確認いただきました。

また、約千六百万円の繰越金は、今年度の県大会連覇



教頭(佐渡高校男子バレーボール部)を春高に送る会事務局長(桐原 宏史)

春高連続出場を目指す男子バレー部の遠征費、強化費及び練習環境整備費に充てさせていただきますことをご了承いただきました。

さて、今年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、各種大会の中止が発表されるとともに、男子バレーボール部も長い期間活動ができませんでした。部活動再開後の7月においても、泊を伴う遠征等はできない状況です。しかし、このような状況下でも、選手は現在できることに精一杯取り組んでいます。

最後になりますが、皆さまから男子バレーボール部に寄せられた熱いご期待に沿うべく、選手をはじめ監督、教職員一同、力を合わせて頑張っております。今後ともご声援をいただければ幸いです。

### 春高バレーを振り返って

男子バレーボール部

主将 北村 宏樹

幼い頃からの仲間たちとの目標である春の高校バレーに、そしてあのオレンジコートでプレーするために努力の上に努力を積み重ねてきました。

多くの方々のご指導やご支援のおかげで令和元年度春の高校バレーに出場することができました。

佐渡島からの距離的、時間的なハードルのなかでの遠征や合宿、有能な選手ばかりを集めた強豪校との対戦に心が折れそうになることも多々ありました。しかし、幼い頃からの気心のしれた仲間たちとの大きな絆。みんなで笑い、みんなで泣き、そこでのハンディや悔しさをも力に変えることができました。

同窓会の皆さまには、春の高校バレー出場に際しまして、たくさんのご支援を賜りましたことに感謝申し上げます。またあの地に立つために、最大限に努力していきますので、今後ともよろしくお願ひします。

監督 源氏 篤史

(平成9年卒)

この度の春の高校バレー出場に際しまして、同窓会の皆さまにはたくさんのご支援を賜りましたこと大変感謝申し上げます。また大会当日の青一色で染まった大応援や全国各地から届いた同窓生の皆さまからの激励のお手紙に大きな勇気をいただきました。春高バレー会場を佐渡一色で染めた大応援団のおかげで、ベスト応援賞を受賞することができました。

これからも皆さまのご期待に沿えるよう、邁進してまいりますので、どうか一層のご指導とお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

## 先輩に追いつけ！在校生の活躍

令和元年度  
△全国大会・北信越大会  
出場クラブ)

上位大会へ多くの部が出場！

本校から運動部では、陸上競技部・ソフトテニス部が全国総合大会に、バレーボール部が春高全国大会に出場しました。また、空手道部・バドミントン部・水泳部が北信越大会に出場しました。

部活動以外では、全国英語スピーチコンテストに出場しました。

相川分校からバスケットボール・陸上競技部が全国大会へ出場しました。

他の多くの部も健闘しており、今後の更なる精進をします。

### 運動部

#### 《本校》

#### ◆陸上競技部

- △女子
- ・県総合体育大会
- 【七種混成】
- 1位 土屋 美晏フラガ※
- △北信越大会
- 【七種混成】
- 1位 土屋 美晏フラガ◎

- ◎全国高等学校総合体育大会
- 【七種混成】
- 9位 土屋 美晏フラガ
- ・県高校選抜大会
- △男子
- 【5000m】
- 7位 田中 暁翔※

- △女子
- 【800m】
- 7位 笠木 楓花
- 【5000m競歩】
- 5位 林 陽彩※
- 【七種混成】
- 1位 土屋 美晏フラガ※

- △北信越新人大会
- △男子
- 【5000m】
- 7位 田中 暁翔
- △女子
- 【5000m競歩】
- 16位 林 陽彩
- 【七種混成】
- 1位 土屋 美晏フラガ

- ◆バレーボール部
- △男子
- ・第72回全日本バレーボール高等学校選手権大会
- 新潟県予選
- 優勝 佐渡高校◎
- ◎(42年振り2回目)
- ◎第72回全日本バレーボール高等学校選手権大会
- 春高全国大会(42年振り)
- 1回戦
- 佐渡高校0-2鹿児島工業
- ・県1・2年生大会
- 優勝 佐渡高校※(初優勝)
- △北信越高等学校新人バレーボール大会
- ベスト8

- ◆ソフトテニス部
- ・県総合体育大会
- △女子
- 【個人】
- 5位 愛音・菊池保乃加ペア◎
- △北信越大会
- 【個人】
- 本多 愛音・菊池 保乃加ペア
- ◎全国高等学校総合体育大会
- 【個人】
- 本多 愛音・菊池 保乃加ペア
- 3回戦敗退
- ◎全国高等学校選抜インドア大会
- 【個人】
- 石原 照彦・滝田 伸ペア
- △北信越高等学校選抜インドア大会
- 【個人】
- 石原 照彦・滝田 伸ペア
- ベスト8※
- ◎全国定時制通信制大会
- 相川分校27-1北星(三重)
- 2回戦敗退

- ◆バスケットボール部
- △男子
- ・県定時制通信制大会
- 1位 相川分校◎
- ◎全国定時制通信制大会
- 相川分校27-1北星(三重)
- 2回戦敗退

- ◆空手道部
- ・選抜大会
- 【女子団体組手】
- 3位 佐渡高校※
- 【女子個人組手】
- 3位 藤原 里緒
- △北信越新人大会
- 【女子団体組手】
- 初戦敗退

- ◆水泳部
- ・県総合体育大会
- △女子
- 【200m自由形】
- 7位 岩崎 千南※
- 【400m自由形】
- 6位 岩崎 千南※

- ◆相川分校
- ◆総合運動部(陸上競技)
- ・県定時制通信制大会
- △男子
- 【1500m】
- 1位 山本 中◎
- 【5000m】
- 2位 山本 中◎
- 【走幅跳】
- 2位 大澤 陸◎
- 【三段跳】
- 1位 大澤 陸◎
- 【円盤投】
- 2位 平片 力也◎
- ◎全国定時制通信制大会
- 【1500m】
- 6位 山本 中
- 【5000m】
- 4位 山本 中
- 【走幅跳】
- 記録なし
- 【三段跳】
- 9位 大澤 陸
- 【円盤投】
- 予選敗退
- 平片 力也

- ◆バドミントン部
- △女子
- ・県総合体育大会
- 【団体】
- 3位 佐渡高校
- △北信越大会
- 【団体】
- 1回戦
- 佐渡高校0-3市立長野

【全文掲載】

A Pilgrims' Touch

WATANABE Amelie
Sado S.H.S.
(Niigata)

OK, this speech requires some audience participation. I'm going to ask you to place your hand on the person's sitting next to you. Wait. Now, I understand that there is a 50% chance that some of you are shy Japanese people who don't go around touching strangers, but please, just try and tolerate it for a second. It won't kill you. Thank you. How did that feel? Most of you probably felt nothing, some of you may have felt uncomfortable, but perhaps, there is a chance that maybe, just maybe, one of you fell in love with the person you touched! You can thank me later.

The hand is the easiest part of bare skin that can be touched on a human's body. This one touch, though, can have quite a few different meanings. For example, you might hold hands with a classmate at school because your teacher told you to - for only that reason - and not feel anything but grossed out by your partner's sweaty hand. You might shake hands with a business partner, confirming a professional relationship. Or you might simply link your fingers through your lover's to show affection. Hands can also calm us. Studies show that certain types of endorphins that combat stress hormones are released through physical touch, as seen when infants stop crying when they are placed on their mothers' chests. The touch of hands has also been brought up in the famous Shakespeare play, "Romeo and Juliet." Juliet woos Romeo by saying "Saints have hands that pilgrims' hands do touch, and palm to palm is holy palmers' kiss." I personally adore this scene, which led me to have a fetish for hands and Leonardo DiCaprio. These two objects on the ends of our arms have been used for communication and creating relationships throughout our history.

I think most of you have heard the phrase "hand-made" at least once in your life. Don't those words just make whatever they are describing seem a thousand times more natural? Calling something handmade just makes it sound better. Take Japanese artisans who paint yuuzenn (designs on kimonos), for example. The reason their work is so amazing is because it was created by their own bare hands. People are drawn to these objects because they wonder how a set of human hands, much like their own, could create something so innocent and pure.

It is not just for art, though; it is in the food, too. Of course, cookies, sandwiches and rice balls are all handmade, but have you ever tried making something fermented, like miso? I recently started helping my mother make it. Miso is made out of beans, salt and koji mold. The process involves a lot of mixing with your hands. First, the salt and the koji mold are thoroughly combined. Then, you mix in giant mounds of mashed beans until everything is perfectly blended. We do this with our hands to bring our family's unique flavor to the miso because it is believed that the hands have a special essence that makes it taste better.

These hands-on practices are being lost, however, due to "progress" in modern technology. Take mochi rice cakes for instance. Nowadays, people have machines to make it, but have you ever attended a mochi making party? Have you ever stood around a table, hands covered in potato starch, pulling and shaping mochi into small delectable bites? Their sizes and shapes are not perfect or uniform, like what you get out of a machine, but they are all-the-more real. Robots and machines, no matter how flawless the products they assemble may be, can never compete with the profound beauty created by hands.

We have touchscreens, but the real sensation of touch is beyond compare. So focus on the people you are with. There are things we cannot experience by looking at a screen. The evidence that reality actually exists is something you can never completely grasp until you feel it against your own skin. Text through touch and tell people how you feel. I believe that the way to a person's heart starts with a touch.

部活動以外

- 第14回新潟県高校生英語スピーチコンテスト
1位 渡邊 天李
第13回全国高等学校英語スピーチコンテスト
関東甲信越ブロック大会
第2部
1位 渡邊 天李
第13回全国高等学校英語スピーチコンテスト
決勝大会
第2部出場 渡邊 天李
A Pilgrims' Touch
『聖人の触(ふれる)』

第13回全国高等学校英語スピーチコンテスト



渡邊天李さん(後列右から5番目)

インターハイを振り返って
土屋美夏フラガ

私が今シーズンを振り返って一番印象に残っているのは、多くの支えがあり成長できたことです。インターハイは私が一年生の頃よりずっと目標にしていたもので、出場が決まったときは本当に嬉しかったです。出場決定後、顧問の先生が特別にメニューを考えて下さり、仲間の多くがインターハイに向けての練習に付

きあってくれ心の支えとなりました。その中で、いつしかインターハイでの「入賞」が私の目標となりました。そして、迎えた大会一日目。先生に褒められるほど調子が良く、一日目終了時点で8位になることが出来ました。全国という大きな舞台で自分の実力が試されることにとっても緊張していましたが、一日目を無事に終えられてほっとしたのを覚えています。しかし、大会二日目1種目の幅跳で、踏切と風を

読むことが合わず自己ベストを大きく下回り一気に順位を落としてしまいました。精神的に大きなダメージを受けネガティブになっていた。強く押し下され、サポートで来てくれた仲間や両親にも「頑張れ」と激励を受け切り替えました。その結果、7種目中、年間ベストを4種目出すことが出来ましたが、結果は9位と悔しい順位となりました。もう少しで表彰台という思いもありますが、私の競技力のなさ、メンタル

の弱さを痛感しましたし、レベルの高いライバル達と競技することができ良い経験となりました。



走り高跳び(1m71cm 全国ランキング13位)



7種混成(4706点 全国ランキング10位)

2020年3月卒業生の主な合格先

北海道大学、北海道教育大学、筑波大学、宇都宮大学、群馬大学、千葉大学、新潟大学(15名)、上越教育大学(2名)、富山大学、山梨大学、信州大学、愛媛大学、青森県立保健大学、岩手県立大学、山形県立保健医療大学、茨城県立医療大学、群馬県立女子大学、高崎経済大学、神奈川県立保健医療福祉大学、新潟県立大学(4名)、新潟県立看護大学



年1回、高齢登山。左から西穂高岳、間ノ岳、天狗岩、ジャンダルム、奥穂高岳と吊尾根 関川敬義氏(昭38卒)

過去5年間の卒業生の進路先

Table with 6 columns: 卒業年 (2020, 2019, 2018, 2017, 2016) and 5 rows of categories: 国公立大学, 私立大学, 国公立短大, 私立短大, 専門学校, 就職, その他, 卒業人数.

(4名)、上智大学、法政大学(2名)、早稲田大学、など例年、大学・短大進学者は、全体の7割以上を占め、専門学校進学者も含めると、進学者が9割を超えています。新潟県内において、佐渡高校は進学校であり、大学進学を中心とした進路指導を行っています。しかし、一番大切なことは、生徒の希望進路を重視することであると考え、進路面談を綿密に行うなど、生徒ひとり一人の希望進路を実現する指導に全力を尽くしています。

同窓会発行の書籍について

佐渡高校同窓会発行の書籍の在庫があり、下記の価格で頒布しています。(知り合いで歴史に興味のある方がいましたら、ご紹介下さい。)



▼問い合わせ・購入は同窓会本部事務局まで (電話 0259-57-2155)

- 同窓のおとずれ 送料込 5,000円
●佐渡高等学校百年史 送料込 3,000円
●近世先賢書簡集(萩野由之博士蒐集) 送料込 10,000円
●伊藤氏日記 送料込 5,000円



第7回小木・羽茂・赤泊支部合同総会 令和2年2月22日 於 大崎活性化センター

寄贈図書抄

令和元.7月~令和2.7月

Table with columns: 著書名, 著者名, 寄贈者, 年月日. Lists donated books and their details.

令和2年度 同窓会役員名簿

Table of association officers for the 2020 fiscal year, including names, positions, and birth dates.

計報

令和元年8月から令和2年7月末日までに事務局に連絡のあった方々です。生前のご厚誼を感謝し謹んでご冥福をお祈りいたします。

Main table of deceased members with columns for name, birth date, and death date.

編集後記

同窓会会員の皆様には、同窓会事務局について温かいご支援... 本年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴い...